

社外重役

Selected Clients & Professionals Relationship

発行)株式会社ノースアイランド
 東京本社)東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル10F
 Tel.03-3216-2004 Fax.03-3216-0439
 大阪支社)大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル9F
 Tel.06-6448-2004 Fax.06-6448-0539

経営

高度な施設型農業「スマートアグリ」 植物工場、200ヶ所に拡大、3割黒字化

植物工場は日本国内で2009年の50ヶ所から200ヶ所(2015年3月時点)に急速に拡大している。

植物工場は高度な施設型農業の一形態で、光・温度・湿度・CO2濃度・水分・養分などの生育環境を人工的に管理し、年間を通じて計画的な収穫を目指していく栽培施設だ。

植物工場には、閉鎖環境で太陽光を使わずに環境を制御して生産を行う「完全人工光型」と温室等の半閉鎖環境で太陽光の利用を基本として、雨天・曇天時の補光や夏季の高温抑制技術等により生産する「太陽光利用型」の2つがある。いずれも、コンピュータを用いて積極的に生育環境をコントロールする。

具体的には、栽培者が制御盤を用いて制御用コンピュータにて環境設定を行うと、各種センサで生育環境を把握し、温湿度であれば空調機、養分であれば追肥装置などを用いて計画的にコントロールする。植物工場の要素技術に関して日本は世界のトップレベルであり、植物工場でのセンサ・モニタリング技術や制御技術などの中には、製造業(生産システム)における技術が適用されているものも多い。

現状では実証用の小型施設も多いが、約3割の施設で黒字化を実現している。これこそ植物工場などの“スマートアグリ”の一完成形で、「勘と経験」から「科学と実績」に裏打ちされた計算できる農業経営へと向かっている。

税務会計

申告書は8割が「自力で作成する」 難しいのは「申告書の記入・作成」

2月16日からいよいよ確定申告が始まったが、お金のプラットフォームを提供するマネーフォワードが、2016年に確定申告をする1042名を対象に実施した「確定申告に関するアンケート調査」結果によると、申告書の作成については、82%と8割以上の人が「自力で作成する」と回答。「会計事務所に申告前にまとめて依頼する」(5%)や「普段から会計事務所と顧問契約している」(4%)は少数にとどまった。

また、申告書の提出については、「税務署に持参する」(41%)という回答が全体の4割を占めたが、「電子申告(e-Tax)利用」(28%)については男女差がみられ、男性は32%で女性(16%)の2倍の回答数が得られた。

確定申告について「難しい」との回答は全体で46%だったが、男性の44%に対し、女性は58%が「難しい」と回答。最も難しいことは、「申告書の記入・作成」(15%)が1位。申告書は種類が多いため、該当する書類を適切に選び、記入欄に正しく記入する必要があるため、難しいイメージを持つ人が多いようだ。以下、「領収書や請求書の保管」(14%)、「使ったお金を経費に含めるかどうかの判断」(12%)だった。

確定申告をする上で、最もわずらわしい作業(3つまで回答)でも、トップは「申告書の作成」(28%)になり、申告書の記入が難しさの要因になっていることが分かる。

今週のキーワード

スマートアグリ

直訳すると「スマート(利口)なアグリカルチャー(農業)」。最新のIT技術で常に栽培に最適な環境を実現する、最新鋭の農業のこと。世界1、2位の農業輸出国アメリカ、オランダを筆頭に「農業革命」が進む。経産省ではスマートアグリシステムの設計・開発・輸出には「IT事業者、農家、農業機器や食品メーカー、商社や金融機関といった異業種プレーヤー同士の提携、事業展開等を支援していくことが最重要」という。日本の農産物輸出額は0.3兆円、米国10兆円。